



## 1 学習に取り組んでいる主な分野

<input checked="" type="checkbox"/> 生物多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 海洋	<input type="checkbox"/> 防災・減災	<input checked="" type="checkbox"/> 気候変動
<input type="checkbox"/> エネルギー	<input checked="" type="checkbox"/> 環境	<input type="checkbox"/> 文化多様性	<input type="checkbox"/> 世界遺産・文化財
<input type="checkbox"/> 国際理解	<input type="checkbox"/> 平和	<input checked="" type="checkbox"/> 人権	<input type="checkbox"/> ジェンダー平等
<input checked="" type="checkbox"/> 福祉	<input checked="" type="checkbox"/> 生産と消費	<input type="checkbox"/> その他 ( )	

## 2 ユネスコスクールとしての活動の概要

本校は海洋教育を推進しており、みなと小、天領小、駛馬小と連携しながら、海洋に関わる課題解決を図る学習を展開している。特に、本校は「森・川・海」のつながりを通じた4校合同の海洋教育へと発展できるよう実践を進めており、関連するSDGsの目標13・14・15を中心に、総合的な学習の時間（3～6年）において、年間25時間を「海の時間」と設定し、海洋教育の4つの視点「海に親しむ・海を知る・海を守る・海を活用する」を系統的に仕組んだ活動計画を作成し、実施している。



## 3 特徴的な活動事例の紹介

○【3年生】地域を流れる川の生き物調査と他校との交流による生物多様性の理解

校区を流れる「野間川」で生物調査を行い、たくさんの種類の生き物を見つけることができた。見つけた生き物について調べていくと、ホタルやメダカなど、水のきれいな川にしか生息しない生き物が野間川にはたくさんいることがわかった。そして、調べたことをもとに、市内の子供たちと自分たちの校区で見つけた生き物について、Zoomを使った合同学習の場においてそれぞれ発表しあった。この交流を通して、大牟田の川や有明海には、場所によって種類の違う様々な生き物がいることを理解した。



## ○山・川・海とのつながりの学習と環境保全

校区を流れる野間川の水質調査を行い、きれいな川であること、そのためたくさんの種類の生き物が生息していることが分かった。そして、有明海で珍しい生き物や海苔がとれるのは、校区に多数存在する山の土壌から染み出た栄養が川を伝って海に流れ込むからだということをG T等の話から学習した。そして、山の森林を守ることが川の生き物や豊かな有明海の保全につながるということから「山・川・海」のつながりについて発信した。



## ○竹を活用した環境保全

前学年での学習で、森・川・海の関わりについて学習したことから、校区の森林の調査を行うことにした。すると、手入れされていない竹林が多数あり、土砂崩れなどの原因や、山の土壌に影響を及ぼしていることを知った。もともと竹は日本人の生活の中で使われていた素材であり、身近なところで使われていたが、近年プラスチック製品に変わったことによって竹の消費が減っていることも分かった。

そこで、竹を伐採して手入れをするだけではなく、切った竹を有効活用して割り箸や竹炭などを作り、「竹害」から「竹財」へと考えを転換していこうと4校合同授業や他地域の人たちへ発信し、山の環境を守る大切さを呼びかけた。



## 3 今後の活動計画

令和5年度は、E S Dにおいて、さらに海洋教育を柱とした体験活動や探究活動を充実させていきたい。そのために、

- 1 海洋教育の目指す資質・能力を明らかにしながら系統的なカリキュラムになるように見直しを図り、令和4年度までの実践をさらに高めていく。
- 2 身近な「ひと・もの・こと」も最大限に活用できるように教材開発を行いながら、活用方法を探究する。

様々な体験活動や協働学習を位置づけ、子供たちが自信をもって活動を広げていくことができるような活動を行い、学んだことを発信できるような活動を展開していく。